

# あけましておめでとうございます

前川良太

あけましておめでとうございます。昨年は家族みんなでインフルエンザに罹ってお正月休みを棒に振ってしまったので、今年は何としてでも健康に過ごしたいものです。ちなみに今年は年男です。え、巳年なん？とだいたいの人に嫌そうな顔をされます。「どおりでしつこいわけや」と言いたげな感じで…。今年も粘り強く頑張りたいと思います。

我が家のお正月は毎年祖母の家に家族みんなで集まり、手作りのおせちを食べます。岸和田生まれ岸和田育ちの祖母の作るお雑煮は白みそに丸もちです。手作りの白みそは甘くて、子どもの頃は好きではありませんでした。今でもおすましにしてくれたらいいのにと内心思っています。



そんな我が家の家系は教師一家で、元をたどればひいおじいちゃんは校長先生だったそう。父も母も、父の双子の弟も叔母もみな教師です。母は岸和田の荒れた中学校ばかり赴任していて毎晩遅い帰宅を待って、私は妹と二人で留守番をしていました。父はサッカーチームの監督をしていたので夜も遅く土日も不在で遊んでもらった記憶なんてこれっぽっちもありません。叔父や叔母も似たようなものです。そんな両親たちを反面教師にし、絶対教師にはならないと心に決めていましたが、気づけばそんなに遠く離れていない日々を過ごしていることに驚きます。

子どもの頃から我が家の食卓ではいつも地域の子どものこと、教育のこと、学校のこと、そんな内容の議論がいつも繰り返されます。そんな大人同士の会話の隣にいる私にも子どもの視点ではどうなんや？と意見を求められます。なんとなくいっちょ前なことを言いながら、大人たちの会話を聞いて育ちました。それが毎月小難しい巻頭を書く私の原点です。じっくり考えたり、人の話を聞いたり、また考えたり、そんな体験が私の生活の一部です。干支の通りへびのように粘っこい私の原風景です。

いわゆるサラリーマン家庭というのがどういうものなのか私には想像もつかず、物心ついた頃から保育士になってアトムに戻ると決めていました。保育士になりたいというよりも、アトムに戻りたい・アトムで私がしたような幼児期の体験を後世に残していきたいという思いが強かったように思います。私が保育士として担任を持っていたころを知っている保護者の人は、ありがたいことに現場を離れていることをさみしがってくれる人もいますが私としては、初志貫徹でやりたい仕事の延長線上の日々を過ごしています。最近立て続けに、つばさを卒園した子たちが遊びに来て、じっくり学校の話や思い出話をしたりしています。冗談半分で「次はあんたがつばさに帰ってきて園長な」なんて話しています。そんな話をしながら、循環を感じたり次を担う世代を育てる保育という仕事の大きさを実感しているところです。

昨年は 20 周年の式典もあり、これまでの足跡を確かめる一年でした。ここからはまた新たな 20 年のスタートです。目の前の皆さんと一緒に歩むところからまた地道に地域の中で私たちができることを今年の干支のように粘り強く積み上げていきたいと思います。2025 年もどうぞよろしくお願いします。

